

祖母とのこれから

中 三

認知症の祖母が恥ずかしい、そう思っていたことがありました。県をまたいだ場所に住む祖母に時々会いに行くといつもそう考えてしまいます。祖母が嫌いなわけではありません。幼い頃は仲よくしてもらいました。しかし、祖母が認知症を患ってから一緒に外出したくなくなりました。

きっかけは、ある日外食に行ったときのことでした。まず、車に乗るのも一苦労しました。私たちが何度もご飯を食べに行くのだと言っても、祖母は「どこへ行くのか」「家に帰れるのか」「前の家に帰りたい」と言います。車に乗るだけなのに何分も待たされてうんざりしました。必死に祖母と話している母たちを見て、「どうせ何を言っても聞いていない、すぐ忘れるから無駄だ」と思いました。そして、店に着いてからが一番大変で、私は恥ずかしいと感じました。祖母は店内で大声を出し、席になかなか座ろうとしません。また、何か伝えるときは祖母の耳の近くで大きな声を出

さなければいけないため目立つのです。他のお客さんの目を引き、私は恥ずかしくてずっとうつぶいたままでした。このことから、認知症の祖母が恥ずかしい、煩わしい、疎ましいと思うようになりました。また、祖母の世話をしている叔母や、祖母の存在を無視できない母はどう思っているのか気になりました。

「祖母の介護は大変ではないのか」と母に聞くと「たしかに大変だけど自分を育ててくれた母親だから」「認知症に好きでなつたわけではないから」と言われました。母は看護師で毎日祖母のような人たちの介護をしています。だから、学校では接することのない人たち、その人たちの苦しみについて理解してほしいそうです。

認知症患者の苦しみを、私は理解していませんでした。人や物、自分が何をしていったか思い出せず、自分に自信がなくなってくるでしょう。そんな不安の中、周りの人たちから邪険に扱われたら、きつとすごく悲しいはずです。そう考えたとき、私の祖母に対する態度を思い返し、自分勝手だったことに気付きました。祖母には祖母の人生があるのです。母たちを育て、孫の私を可愛がってく

れました。それなのに認知症が面倒だから、周りの目が気になって恥ずかしいからと邪魔者にされる、そんな扱いをされていいはずがありません。私は自分の身勝手な考えを反省しようと思いません。認知症の苦しみ、邪険にされる痛みを理解すればもつと優しく接していけるはずです。

認知症への理解というものが広く伝わってほしい。多くの認知症患者の人たちのことを考えながらそう思いました。もし、どこかで認知症の人に会ったらどうするべきでしょう。もしかしたらその人は静かにしなければいけない所で、大声を出したり、物を探し出したり、変なことをしたりするかもしれない。しかしそのとき、冷たい態度をとって非難の目を向けないでほしいのです。その人たちへの理解を欠いた接し方をすれば、その人たちは苦しみ、出かけづらくなります。そうになると当たり前にある、町を歩く日常さえなくなってしまう。それだけでなく、私のように恥ずかしいと思った家族からも疎まれてしまうかもしれません。だからもし、そんな人に会ったときは、迷惑そうに接するのではなく、助けられないでしようか。もちろん、そこで出会った認知症の人

は、そのとき、その場で会っただけの他人、しかも周りに迷惑をかけているかもしれない人です。しかし、その人も大変なんだと分かれば優しくできるのではないでしょう。例えば、手続きに時間がかかっているときに待つなどです。そんなちよつとした優しきで救われるかもしれません。

このような態度が認知症の人たちへの理解を示すことにつながるのではないでしょう。

私の祖母は、もう私が誰かも分からないかもしれませんが、それでも今ある状況の中でせめて楽しく過ごせるよう、ちゃんと理解して接したい。そう思いました。